

放送大学 北海道同窓会会報

第 19 号

発行 放送大学北海道同窓会

発行責任者 中根 恵美子

編集 広報担当

発行日 2011 年 11 月 3 日(木)

URL: <http://hhdoso.sakura.ne.jp>

会員数 198 名(2011 年 10 月 31 日現在)

広報活動継続中

学習センター所長
筑 和 正 格

同窓会員の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。すでに第 2 学期が始まっておりますが、センターの業務は順調に進展しております。3 回目となる文化祭も成功裏に終了いたしました。私自身は、相変わらずあちこち飛び回っています。

『てんとう虫』最新号で報告したように、今年度本センターは、「放送大学の認知度向上事業」に取り組んでおります。その意図については『てんとう虫』でご確認いただきたいと思います。この事業の一環である公開講演会第一弾『まちそだて「あばしり」—トライアルの精神が地域を拓く—』を 10 月 22 日(土)に網走市で開催しました。会場には近隣在住の放送大学の学生と卒業生の方々、ならびにご家族・友人も駆けつけて、熱心に話を聞いてくださいました。うれしい限りです。ありがとうございました。また、講演内容も、出席された方々から一定の評価をいただいたようで、ひとまず安堵しております。

次回の講演は 11 月 5 日(土)、江差町です。網走のときと同様に、江差にも事前調査に行ってきました。町職員で文化関係担当の方が、非常に丁寧に対応してくださいました。いろいろな方にお会いできましたが、何人かとお話ししてすぐに気づいたのは、「江差にはコミュニティがある」ということです。どういう意味かといいますと、江差町に生まれ育った人々の多くは、町を出ていくよりも江差町で働き暮らし続けることを望んでいる、ということです。つまり、江差というまちはその成員に居心地の良さを感じさせるまちなのです。上で用いた「コミュニティ」という語は、ドイツ語の「ゲマインシャフト(いわゆる〈つうーかあ〉の世界)」という意味で、くどくどしい説明など必要としない人間関係がある世界のことです。このような世界の一員であるならば、確かに煩わしいストレスを感じることなく生活ができるかもしれません。また、この種のコミュニティは、往々にして非常に閉鎖的であり外部者の参入が困難な社会であり、しばしばその成員に対しても息苦しさを強いるものですが、江差の住人は、どうやら息苦しさを覚えることがほとんどなさそうです。これは、北前船の寄港地としての古い歴史をもつ港町としての開放性に由来しているのと思われま



す。「人を極度に縛りつけない包容力」が鍵なのかもしれません。

しかし、この居心地の良いまちも、残念ながら人口減と経済の停滞に悩んでおります。けれども、この状況からの脱却のために、とりわけ高等教育機関をもたないまちにとって、放送大学の授業ならびに人材が提供する自然・社会・人間についての豊富な知見が役立つとすれば、放送大学の存在意義はますます高まるわけです。その契機となることを念じて、江差町で講演会を開催する次第です。10月1日のBSデジタルでの放送授業放映開始も追い風にしたいものです。

江差町の次は根室市(12月12日[月])、留萌市(12月18日[日])で講演会を開催します。同窓会員の皆さんには、本センターのこうした意図をぜひご理解いただきたいと思います。そして、もし該当する地域に知り合いの方がいらっしゃいましたならば、通知していただければ幸いです。いつも頼み事ばかりで恐縮ですが、どうかよろしくお願いいたします。

「学生と母校を支援するために」

北海道同窓会 会長 中根恵美子

今年度から研究発表会・文化祭(みんなの音楽祭を含む)を北海道学習センターに所属する学生やサークルと一丸となって開催しました。6回目までの研究発表会は同窓会で行っていただきましたので、学友会や学生サークルの実行委員となった学生の一部は経験のない事をするため戸惑いがありました。しかし、実行委員が協力し話し合って進め、7回目(本質的な第1回目)も無事に終了することができました。全学生や同窓生が協働できるものとしての第一歩を踏み出しました。感慨深いものがあります。研究した事を発表し、そしてその場をみんなで作り上げる事の喜びを戴きました。北海道学習センターの学生・同窓生のみなで来年も再来年もこの会を継続し学生を支援しましょう。みんなで頑張りましょう！！

今年の「文化祭」も楽しく進行しました。「みんなの音楽祭」「作品展示」「バザー」「研究発表会」と盛り沢山で、実行委員は文化祭の羅針盤である成田さん指導の下、企画・準備・広報とよく働き、展示担当者の木戸さんは「俺に任せとけ」との力強い声。楽しく遊び、よく学ぶ北海道の放送大学生は全国で一番親しい学友が多い学生になったようです。学生や母校を支援しながら私たちも楽しんだり勉強したり感動したりです。絆を確認した有意義な文化祭でした。

放送大学は学友同士の顔が見えにくい、特殊性を持った大学です。同窓会の役割の一つはその学生支援です。同窓会では、卒業・修了され学位を授与されたかたを対象に、授与式後となりの講義室で「卒業・修了を祝う会」を開催しています。その会で、お赤飯と紅白饅頭を頬張りながら、それぞれの卒業・修了に至るプロセスを交流しながら情報交換し、卒業生同士や同窓会との繋がりを持っていただく事です。一方、同窓会報やてんとう虫・学友会報を送り、それにより学習センターの様子などを知っていただき、放送大学への再入学をお誘いする事です。その他、会員の交流にも力を入れています。同窓会定期総会に出席していただいて、総会後の親睦会で交流をするチャンス作りなど。また、同窓会幹事は学友会主催の「入学者の集い」にも参加させて頂きお手伝いをしますので、学生との交流が広がります。それなので、同窓会会員の皆さん！！同窓会幹事に是非なって下さい。

第7回 全道生涯学習研究発表会を2011年6月4日(土)開催しました。

1 記念講演：放送大学北海道学習センター所長 筑和正格 氏

演題：効果的な「学習」「研究」とは？～研究は「温故知新」の精神で！～



学問・研究領域での「学習」の定義は「新しい情報に接し、その内容を理解した上で、自分の中に知識として定着させること」。効果的な「学習」方法は①必須事項とそれ以外を区別する。②キーワードはどれか！注意事項①キーワードは、文脈によって決まるが、逆に節の中のキーワードから文脈も把握することもできる。②省略可能な語であっても、それを単純に、文章に不必要な語として判断してはならない。文章をより

効果的に伝えるために不可欠なものと考えられるから。次に 効果的な「研究」法とは で、ここでは「研究法」を「論文執筆法」と読み替え「いかに論文を書くべきか」のお話。放送大学で学びそして卒業研究をしてみんなの前で発表するプロセスの中で最も重要である「論文を執筆する」事を丁寧に教えてくださいました。



2 研究発表

発表 1 テーマ「付着珪藻群集の種組成に基づく札幌市及びその近郊の河川の水質評価」

持田 大 氏

平成 23 年 3 月放送大学大学院文化科学研究科

総合文化プログラム環境システム科学群修了

現職：国立大学法人北海道大学技術専門職員



発表の概要

「珪藻を用いた2つの水質判定法を札幌の河川で比較、水質判定。更に種組成に影響を与える環境要因の検討。」

本研究では、北海道の都市部札幌市及びその近郊の河川において、DAIpo（付着珪藻群集に基づく水質の有機汚濁指数）及び識別珪藻群法を適用し、北海道における研究例が管見では見当たらない後者の有効性を検証するとともに両者の間での比較を行うことをまず目的とした。あわせて、札幌市及びその近郊の河川の水質汚濁の現状を、付着珪藻の種組成に基づいて把握すること、水質汚濁以外の環境条件の中で付着珪藻の種組成に影響し得るものはあるのかを検討することを試み、以下の所見を得た。

札幌市及びその近郊の河川の水質汚濁状況は、琴似川の一部流域を除き、きれいという判定をした。過去の研究例及び調査報告と比較すると、1970年代の下水処理の整備を境にして、それ以前と比べると改善しているが、それ以後と比べると著しく改善されているとは言い難いと考えられた。

発表 2 テーマ 「旭川市江丹別町嵐山とその近郊におけるエゾサンショウウオの産卵数と環境について」 松本英和氏

平成23年3月 放送大学大学院 文化科学研究科自然環境科学プログラム 修了

発表の概要

エゾサンショウウオは北海道に広く分布する両生類の一種です。色は黒く大きさは15cmくらいです。大きなつぶらな瞳を可愛らしく思います。このような動物ですが、近年は都市周辺の開発が進み旭川市においても多くの生息地が姿を消してしまいました。このようなことから、旭川市近郊で人為的影響を強く受け、生息数が減少している江丹別町嵐山地域と、嵐山近郊で比較的人為的影響が少なく安定した生息地である深川市多度志地域を選定し調査を行ってみました。2つの地域を比較し、産卵数が安定している環境条件と不安定となる環境条件を比較・整理し、今後の両生類保護に向けての参考にしたいと思い研究をしました。



発表 3 テーマ 「開拓の歩みと酪農文化の継承」 清水浩光氏

平成23年3月 放送大学大学院 文化科学研究科 教育開発プログラム 修了

副題 北海道別海町における地域社会学校の構想をもとにして

教職経験から「地域文化の教材化に関する研究～地域文化の創造と継承のために～」

第3回放送大学文化祭 **第3回みんなの音楽祭** 平成23年10月8日(土)

東日本大震災チャリティーコンサートを開催しました。 場所 北大クラーク会館 講堂
プ ロ グ ラ ム

第1部

§ 放送大学学生、同窓生、道民カレッジ生、宮本尚、他一般の有志

北海道インターナショナルバレエ・ダンスカンパニー出演

1. バレエ 北海道インターナショナルバレエ・ダンスカンパニー

(作品) オーギュスト・ブルノンヴィル (詳細別紙)

2. 合唱 放送大学北海道学習センター「うたの会」

①放送大学賛歌②もみじ③サンタルチア④野ばら⑤忘れな草⑥希望のささやき



3. 朗読 中川俊二

芥川龍之介「蜘蛛の糸」より

4. ロシア民謡合唱サークル「シレーニィ」(シレーニィ:リラの花)

②ウラルのグミの木③小さなグミの木④カチューシャ

5. L I V E 宮本 尚 作詞・作曲・歌・ピアノ

きたネット合唱団 コーラス 黒子奈美江 中根恵美子

①荷車に乗って②イモケムワルツ③私が死んだら故郷の村に埋めてくれ

④山に願いを

第2部

§ 河邊 俊和 バイオリン

鈴木 飛鳥 ピアノ

の共演

1. バッハ G線上のアリア

2. イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ第5番 (ヴァイオリンソロ)

3. クライスラー 美しきロスマリン (ヴァイオリン)

4. シベリウス ロンディーノ 5. クライスラー 中国の太鼓

6. ベートーヴェン ロマンズ op. 50 7. モンティ チャールダッシュ

休憩



- 8. ショパン ノクターン遺作 (ピアノソロ)
 - 9. チャイコフスキー ユーモレスク
 - 10. ヴルグミュラー アラベスク バラード
 - 11. シューマン トロイメライ
 - 12. ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ第5番 「春」 (ヴァイオリン・ピアノ)
- 川口 弘高 照明・音響・コーディネイト

音楽祭開催にあたっての広報は、FMラジオ出演（筑和所長のご尽力による）・新聞掲載依頼などのメディアを使い、また、チラシ・ポスターを公共施設等に配布しました。放送大学に対する認識と理解を深める為の広報と「みんなの音楽祭」の宣伝となり一挙両得でした。その効果があり、入場者が200名以上（高校生以下・震災被害者無料）と、去年の倍ほどの人数になりました。出席者は来年も開催して欲しいとのことで好評でしたが、第一部ではバレエの演技終了直後、出演関係者が帰るなど、今後の課題となりました。客席がその分空くことで、その後第1部の出演者はみながっかりしました。しかし、それにもめげずに歌い、朗読し、また合唱し、そして尚さんのライブとみんなで頑張り盛り上げ第2部に繋がたと自画自賛しております。それにしても多数の放送大学生が参加して欲しいと切実に感じました。



第2部では、超一流のプロの演奏家がボランティアで出演したクラシックコンサートで、演奏も素晴らしかったですが、河邊さんや飛鳥さんのトークが楽しく、時間が経つのを忘れ楽しく修了しました。学習センター全体での協働作業は非常に楽しかったです。ご協力いただいた大勢の方に感謝します。

* 音楽祭終了後の打ち上げも一般の方に放送大学を良く理解して頂く絶好の機会でした。

第 3 回 文 化 祭

10月8日(土)～10月16(日)を開催しました。

展示 10月11日(火)～10月16日(日)

場所：学習センター 6F 廊下

＊ 絵画・書道・写真・手芸などの展示物。



講演・発表 10月15日(土) 13:00～17:00

場所：学習センター大講義室 6F＊ 研究発表など

バザー 10月15日(土) 13:00～18:00

場所：学習センター 5F ロビー

出品受付：生ものの以外の出品

バザー 会場：5階 ホール

皆様 沢山のバザー用品ありがとうございます。収益金 15,580 円と佐藤裕子様からの寄付金 10,000 円は実行委員会で協議し寄付させていただきます。



第 3 回 文 化 祭 研 究 発 表 会 10 月 15 日(土)

記念講演 : 前放送大学客員教授・北海道大学名誉教授 徳 田 昌 生 氏

演題:「ノーベル化学賞受賞への道～鈴木章博士の研究を語る～」



最初に、鈴木章先生のノーベル化学賞受賞の対象研究「有機合成におけるパラジウム触媒によるクロスカップリング反応の開発」の内容について、「有機合成」「クロス」「カップリング」「触媒」にわけ、わかりやすく解説して下さいました。二番目に、鈴木先生の研究が高く評価された理由について「独創的な基礎

研究」「使いやすさ」「適用性の広さ」などから詳しく解説して下さい、特に従来難しかった炭素－炭素結合反応が容易に行えるようになった事。また、カップリング反応は一般に酸素や水分を嫌う有機金属化合物を使って行われていたが、鈴木－宮浦カップリングは安定なポロン酸を用いて空气中、室温で効果的に行うことが出来る事。複雑な構造を持つ天然化合物の合成で重要な役割を果たしたことなどの興味湧くお話でした。



三番目に、ノーベル賞と日本人受賞者および選考方法などについてお話しの後、鈴木先生のノーベル化学賞受賞に至るまでの道程について、先生の人となりなどもまじえながらお話されました。鈴木先生が工学部助教授の時に徳田先生は学生および助手として同先生の下にいらっしゃったので、先生の研究に対する思いや学生の指導あるいは酒が好きで気さくな先生の姿などの写真を見ながら紹介されました。特に鈴木章先生の言葉と考えでは「人生を決めた2冊の本」を紹介されました。有機化学の教科書「L. F. Fieser. M. P. Fieser “Textbook of Organic Chemistry”」と専門書「H. C. Brown, “Hydroboration”」の2冊で、特に前者は30回以上読破していて常々この著書を念頭において研究していたそうです。また、鈴木語録では「大きな樫の木もどんぐりから (by H. C. Brown) TALL OAKs Grow LITTLE ACORNS」

また、「精進努力:努力しなければ勝利の女神は微笑まない」「教科書に載るような研究をしない・重箱の底をほじくるような研究だけはするな・誰もやっていない新しい研究をしよう」「セレンディピティ (Serendipity):思わぬものを偶然に発見する能力」 鈴木先生曰く「研究者なら誰でも幸運な発見に出会うチャンスがある。しかし、その機会を活かせるかどうかは、“自然を直視する謙虚な心”、“小さな光をも見落とさない注意力”、“旺盛な研究意欲”にかかっている。」先生の考えは「子供達に理科の大切さを知ってもらいたい」「サイエンスアイの活動:子供達に理科の面白さを伝える活動」「若い世代に科学の大事さを伝えたい」「若者は海外に出なさい」

このように解かりやすく、楽しい講演でした。会場から「どうして特許を取らなかったのか？」との質問に、参加者の一人で前センター客員教授の長谷部清先生が「昔は公務員が金儲けする事はいけないことで、特許をとるなど恥だった」と答えたり、会場も和気藹々としていて徳田先生を質問攻めにしていました。先生！！ またご指導御願います。

2 研究発表

発表 1 テーマ 「英語に入ったフランス語の考察」

平成 23 年 3 月人間と文化コース卒業 吉 田 秀 人 氏



9 世紀にフランス王から認可されたノルマンディ公国の王ウィリアムが英国を征服した。(1066年)

(英国王エドワードの死後、王位継承権を主張し、英国貴族ハロルドと戦い勝利した。)

ウィリアムが両国の領主となった事も有り、富裕な貴族や上流階級はフランス語を使い、土着の地主・農民等はゲルマン系英語を使用した。この頃からフランス語の英語化が始まった。

発表 2 テーマ 「ダバオ州におけるマニラ麻栽培と日本人移民」

放送大学教養学部人間と文化コース在学中 小 西 淳 子 氏



1900 年代初頭、フィリピンはアメリカの植民地でした。多数のアメリカ人がダリアオにプランテーションを経営するが人手不足であった。一方日本からの移民がダバオでマニラ麻を栽培(1910 年代に日本の資本が流入)し、ダバオの開発は日本人の手で行われた。しかし、日本人が富裕になる中、フィリピン人との摩擦が増大し、日本バッシングなどがあった。大きな問題を抱えていてもダバオ開拓とマニラ麻栽培は日本人に委ねられていた。1941 年資産凍結令が発令され、第 2 次世界大戦の渦へと巻き込まれて行き、1942 年マニラ麻の生産が無くなった。



学生研修旅行報告

放送大学北海道学習センター
事務長 佐藤 陽一

去る9月16日(金)に平成23年度放送大学北海道学習センター学生研修旅行が行われました。

今回の第一目的地は、計らずも「3.11大震災」以降注目を集めている「北海道電力泊原子力発電所」でした。

当日は、参加された学生さん達の日頃の行いが良いのか(?)前日までの雨天が嘘のように快晴となり、ひとりの遅刻者もなく、筑和所長他総勢39名が、バスで一路「北海道電力泊原子力発電所」に向かいました。

泊村へ向かう車中、前半は筑和所長による『『リスク社会』って知ってる?』と題する講話が、後半は現役時代フランスの原子力発電所の視察を経験した小林学友会会長からの体験談があり、完璧に予習も済ませ、現地に到着しました。

現地では、まず事前に予告されていた通り厳しい身元確認が行われました。ここで学生さん達から、身元確認の趣旨、根拠等について質問が飛び出し、係員も回答に窮する場面もありましたが、この身元確認が「9.11同時多発テロ」を契機にテロ対策特別措置法に基づいて実施されることになったことが判りました。

残念ながら、発電所内部を見学することはできませんでしたが、敷地内にある3機の発電所を見降ろせる丘のうえにある建物から発電所全景を見学することができました。ここでも係員からの説明に対して、学生さん達から多くの質問が寄せられ、探究心旺盛な学生さん達

の見識の高さが伺えました。

若干、予定時間を超過しながら、泊村を後にして、岩内町「いわない高原ホテル」で昼食後、隣接する「荒井記念美術館」を見学しました。この美術館には多数のピカソ版画コレクションの中から常時40点以上厳選して展示してある「ピカソ美術館」、地元岩内町出身の世界的画家である「西村計雄美術館」、道内出身画家が北海道に所縁のある作家 有島武雄が岩内町出身の画家 木田金次郎をモデルとして書いた小説「生まれ出づる悩み」をテーマに描いた油彩画が展示してある「有島武雄美術館」の3館があり、また、隣接する庭園には美唄出身の彫刻家 安田 侃 などの彫刻、オブジェも飾られており、限られた時間を最大限利用して、各自思い思いに美術鑑賞の時間を過ごしました。

今回は、例年より早い時間の出発にも拘らず、時間が超過してしまうという反省点はありませんでしたが、逆に密度の濃い、有意義な学生研修旅行となりました。

サークル紹介

「うたの会」

代表 富川道子



うたの会はローレライ、花、紅葉などの愛唱歌を楽しむ学生サークルです。

放送大学学歌・賛歌などもレパトリーにあり、今や放送大学北海道学習センターに無くてはならぬ重要なサークルとなっています。年間2回の学位授与式後の祝う会と入学者の集いへの出演、「みんなの音楽祭」への出演など大切な行事に歌が欠かせません。

長谷部美恵先生の指導の下、月1～2回の練習にみなさん一生懸命そして楽しく歌っています。

練習後、学生食堂で食べる220円のカレーライス交流なども学生気分を満喫させ、大学の情報を知る良いチャンスにもなりますよ。一緒に楽しんでみませんか？

連絡先 放送大学うたの会 代表 富川道子 011-552-5927

<2011年10月1日学位授与式の様子>



ご卒業によせて

放送大学北海道学習センター非常勤講師
北海道大学大学院 経済学研究科准教授
宇田 忠司

皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さんはどのような思いを抱かれていますでしょうか。

おそらく、決して平坦ではないこれまでの道のりで経験された悩みや苦勞を思い起こされる一方で、達成感や成長感を強く感じられているのではと思います。今、皆さんがこのような得難い思いを胸に良き節目を迎えることができたのは、「自ら」学びを求め、直面する苦難を乗り越えてこられたからこそです。多くの制約がある中で、自主・自律という大学における学びの精神を見事に体現された皆さんに心より敬意を表します。

東日本大震災を契機に、改めて従来の仕組みや制度を再編する動きが加速しています。既存の仕組みがもたらす疲弊を回避するためには、「地域」の資源や技術、知恵に基づいて価値を創造・発信する仕組みの構築が求められます。ただ、このような脱集権的な社会を実現していくためには、一人一人が社会や経済の現状及び見通しをできるだけ捉え、身近な行動に結びつけようとするのが欠かせません。私自身、今回の震災を通じて、改めて知ることと理解すること、さらには他者に説明できることと実践することの間に大きな隔たりがあることを思い知りました。

是非、皆さんには、今後も小さな学びを重ねながら、地域や社会を担う「当事者」として、それぞれの世界をより良くするための小さな行動を重ねていただければ幸いです。その際の支えとなるのは、皆さんが放送大学で培われた知恵と何かを成し遂げようという意思であるはずです。

皆さんの前途に幸多からんことをお祈りいたします。

これでいいのか。

元放送大学北海道学習センター客員教授
放送大学北海道同窓会特別会員・監査
長谷部 清

除染のこと

福島第1原子力発電所の事故により放射性同位元素が飛散し、大気や水に放射線をまき散らせた。原発近くに居を構える住民は、生活の場を失い、半年を過ぎた今も避難所などで生活を余儀なくされている。20キロ圏内の住民は10年間は郷里に住めないのではないかと言われている。それは原発の壊滅的破壊による放射線放出が今なお収束していないことである。誰が放射線放出を食い止め、放射性セシウムやヨウ素など放射性元素から放出される放射線汚染源をどう処理するか、全く明らかに出来ていないからである。たまる一方の汚染源はあちこちに野積みされた状況である。10月12日、東京都世田谷区でも2.7マイクロシーベルトの放射線が検出され、これは年間許容被曝量20ミリシーベルトに近い17ミリシーベルトに相当する値になると言う。福島原発から250kmも離れた横浜市では、原発由来の放射性同位元素ストロンチウムからの放射線が検出されたと報じられた。あちこちで放射線汚染が確認されている。広範な国土の汚染をどう除染するのだろうか、怖い、怖い。皆さんはどう感じられますか。



笑顔のこと1

最近思うことがある、原発事故で自宅に住めなくなり、仮住まいをしている人、子どもを屋外で遊ばせられないお母さん、牛、鶏など家畜の面倒を見られなくなった人など、マスコミのインタビューを受けた際、被害者の多くがみんな笑顔で応じる様である。帰宅できない、子どもを外で遊ばせられない環境の中で、被害者はなぜ、いかり、怒った顔で答えないのか不思議でしょうがないのである。これから長い期間ふるさとに住むことが出来ない状況に、喜んでいるかのような、嬉しそうな、笑顔で答える被災者の気持ちが分からないのは、私だけであろうか。それとも、報道に関し、テレビ局などマスコミ関係者の何らかの思い入れがあるのだろうか。皆さんはどう感じておられますか。

笑顔のこと2

卒業祝賀会に出席して、いつも思うことがある。在籍4年を待たないで卒業する方もおられれば、10年を要した方もおられる。それぞれ苦楽を共にしながらの卒業であるから、この日はひとかたならぬ思い出の一日であろうと察知出来る。特に大学の卒業式や祝賀会を経験できる人にとっては、人生に1度くらいであろうから、感慨深いひとときであったことであろう。卒業生の晴れがましい笑顔がとても眩しく見える1日であった。とても良い笑顔有り難う。

脚注：10月14日世田谷区の放射線（能）は原発由来でないとの報道があった。

2011年度1学期卒業を祝う会報告

＜卒業を祝う会の様子＞



ご卒業・修了された皆様から寄せられた喜びの「ひとこと」です。

杉本 五郎

平成 17 年 3 月全科生として入学以来本年卒業する事となり長い年月でしたが（選科生 14 年入学）、感無量という現在です。その間、諸先生、大学、事務局の方々等にお世話になり厚くお礼申し上げます。私は本年 8 月米寿を迎える年齢ですが、人生を最大限に生きたいと思っております。

有難うございました。

大空町 下島 百合子



10 月 1 日、放送大学の卒業式に大空町から出席する事ができ、幸せな気持ちで一杯です。

放送大学は、学ぶ事の楽しさ、大切さを、私に教えて下さいました。長い間には、計画通り学習が進まない時期もありましたが、晴れの卒業式を、私の新たな出発点としてこれからも学び続けたいと思っています。そして、同時に地域で手伝いできる事があれば、積極的に参加しようと思っていますところす。

震災後、半年が経った 9 月半ば、私の故郷である福島県南相馬市に、両親の墓参りと、兄、弟に会うために訪ねました。福島第一原発から 30 km 圏内で、緊急時避難準備区域（つい最近解除された様である）である。ご存じの様に、福島県は、地震、津波の他に、東電の原発の大きな事故から、深刻な被爆が発生しました。そして未だ、収束の見込みがたっていないのです。故郷は、一見、落ち着いて元の生活が、営まれている様にも見えました。しかし、街中を歩いてみると、シャッターが下ろされたままの店が、沢山見受けられました。避難先から戻っていないとの事でした。

何よりも驚いた事は、小さな子どもの姿が、どこにも一人も見当たりませんでした。福島第一原発に近い故郷を、思うにつけ、一日も早い原発の収束を祈らずには、られません。

そして同時に、震災後の私達は、もう一度、真剣に、自分たちの生活を見直す事を始めなければいけないと、強く思っている所です。

放送大学で学び、身につけた学習のスタイルや、方法を用いて、地域での、新しい取組に参画したいと思っています。

面接授業での教授の方々、事務の方々、サークル活動での先生方、そして卒業式でお祝いの会を開いて下さった放送大学の同窓会の皆様様に、心より深く感謝申し上げます。

北海道学習センター

生活と福祉専攻 土佐 峯子

50才で入学し、9年半かかって今日をむかえました。

最初からゆっくりで良いと考えていました。

放送大学で学んだ最も大きなことは、知識との出会いで人生が豊になることを実感したことです。

放送授業と印刷教材と言う、対面授業ではない間接的な「知識の受け渡し」にも関わらず、その知識が輝きを伴ってこちらに飛び込んで来る体験を何度かしました。

ある日、「イノベーション経営」の授業を寝ころんで見ていました。「昔からの日本人の物作りを中心とする労働形態は、知識を生み出してきた知識創造企業である。」との野中郁次郎先生の講義に「えっ、労働が知識を生産する？ 凄いことを言っている」と思わず正座してしまいました。生憎函館にこの科目のビデオはなく、札幌の放送センターに出かけて何度もこの回を見ました。仕事柄、組織運営に興味を持っていた時期でもあり以後の自分の仕事の仕方を考える上で大きな支えとなっています。

知らないことは考えられないものだと思います。

「国際共生と健康」で、インドシナ女性の平均寿命は21世紀のこの時代で50才ということも衝撃でした。10才くらいで出産・多産、蔓延するエイズ、不潔な環境での出産による感染症。多分、その中にもあるであろう女性の幸福とはどのようなことなのでしょう。

知識と会うことで自己の考える世界が少し広がる、それだけの事なのですが、その積み重ねが私の人生にとってかけがえのないものに思っています。知識は蓄えるものではなく、会うことで「知は力」になることを実感した大学生生活でした。

放送大学で多くの先生や研究者のかたに出会えたことに感謝しています。

敬称略・順不同・原文のまま



「祝ってもらう立場から祝う側へ」

北海道同窓会幹事 中原 美代子

思えば半年前に卒業で祝っていただき感謝しております。同窓会に入会し少しでも繋がりを持ちたく、お手伝いができればと役員を引き受けました。仕事を持っていますので、無理なく楽しんでお手伝いをさせていただいております。

今度は「祝う会」をさせていただく立場となりました。「祝う会」で皆さんが自己紹介をされている時は生き生きとした晴れ姿がとても新鮮で、更なる目標に向って誇りを持って話されているのが印象的でした。

放送大学での「学び」を活かされ、是非同窓会の役員となっただき、同窓会を盛り上げ、同窓会の発展のためご協力をお願いできればと思っております。



「同窓会の運営に携わって六年」

北海道同窓会幹事 安藤 典子

私が同窓会の運営に携わるきっかけは、同窓会に入会した時の私の“ドジ”から始まりました。その“ドジ”により当時の牧野同窓会長に大変お世話になりました。そのお人柄に惹かれ、同窓会のお手伝いをさせていただく事になりました。また、「第1回全道生涯学習研究発表会」の時、主催者として目録を読む担当者となりました。ドキドキしている私を優しく勇気付けてくださり、無事役目を果たす事が出来ました。その会長も病に倒れられ他界してしまいました。

そして中根会長と出会いました。東北の被災された放送大学の学生さんのために涙を流して義援金集めをしたり、自分の事より会員や学生・母校のためを考え、それを実行する気持ちを持った方です。ですから私も同窓会のための活動を続けられています。気がついてみると6年経っていました。



毎年の「卒業を祝う会」「定期総会」「研究発表会」「みんなの音楽祭」「会報作成・発送その他の作業」の終了後の交流会がとても楽しいです。

みなさんも同窓会の運営に参加してみませんか？
楽しくて愉快的な中根会長と話してみませんか？

FAXやメールをお待ちしています。(連絡先は会報の最終ページに記載しています。)

海岸保全ボランティアに参加しました。

中根 恵美子

NPO法人北海道海濱美化をすすめる會・放送大学北海道学習センター「地球守り隊」とともに以下の海岸清掃活動に参加しました。

6月5日 ラブアースゴミ拾いウォーク 2011

場所 石狩市3線浜 天候曇り

ここは札幌市民が最も利用する海岸ですが、石狩川河口から流出したと推測される細かな木の枝が藻屑のように渚に押し寄せていて、その中にビニール袋やペットボトルが散乱し、ゴミを拾いに足を踏み出すとズブズブとぬかるんで足を取られます。とても水遊び等ができる状態ではありません。この三線浜は石狩川からの砂が海岸に堆積し、年々海岸が広がっています。又、日本でも有数の距離を誇る石狩砂丘があり、自然な砂浜海岸が持つ帯状の配列を為しています。強風と荒波と海浜植物が作り出した砂丘の生態系。この全体が非常に大切です。*参考文献（社）北海道自然保護協会パンフレット。その砂丘をバギー車やモトクロスをするバイクなどで荒らしています。又、その海岸利用者（主に札幌からのレジャー客）が置いていった生活ゴミは海岸に溢れています。又、海岸に至る道路は不法投棄のゴミが散乱しています。この日、348名で拾ったゴミは2760kg（燃やせるゴミ1440kg、燃えないゴミ420kg、燃やせないゴミ480kg 粗大ゴミ180kg、漁網・バッテリー等処理困難物240kg/石狩市の分類法による。）*テーター参考 NPO法人北海道市民環境ネットワークHP



10月1日2日 エコツーリズムイン噴火湾

場所 洞爺湖町虻田海岸・豊浦町高岡海岸

豊浦町役場からこの海岸は流木処理の為に重機を使えない狭い海岸なのでその処理も一緒に行って欲しいとの要望で、担当を若者のみにして、高齢者はゴミを拾う活動をし、鮭を釣る人々に感謝される一幕もあった。



会費納入と新入会員募集のお願い

2011年度の継続会員の方は、今年度の年会費1,000円を下記口座へお振込み下さる様ご協力をお願いします。

また、同窓生の中で同窓会に入会していない方がおられましたら、入会をおすすめてくださるようお願いいたします。

入会を希望される方は、郵便振替用紙に「氏名、住所、電話番号、卒業年月、専攻」をご記入の上、入会金1,000円、年会費(初年度)1,000円を下記口座へご送金ください。(次年度以降は年会費のみとなります。)

郵便口座名 放送大学北海道同窓会
口座番号 02740-0-37725

放送大学を宣伝してください！

皆さんの『口コミ』で、放送大学に入学して良かったと思うことを、大勢の方々に知らせてください。

入学等に関する問合せ先

放送大学北海道学習センター
TEL 011-736-6318

「会員の声・読者の声」募集中！

現在、会員や読者の皆さんの声を募集しております。皆さんの近況や会報へのご感想、ご意見がございましたら、是非、お寄せください。

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
放送大学北海道学習センター内
放送大学北海道同窓会
学習センター事務室内ポストに直接投函可
FAX 番号 011-642-2389 中根
E-mail tomi-2.7.2@jcom.home.ne.jp
URL : <http://hhdoso.sakura.ne.jp>

新入会員のご紹介！！(敬称略・順不同)

2011年1学期卒業生

(人) 杉本 五郎 (産) 森川 治朗
(発) 川村 由紀 () 中島 邦博
() 真坂 重行 () 岸本 久美
(生) 松ヶ瀬 恵子 () 麻生 智子
〒・住所・電話番号などの変更のときは、必ず、ご連絡をお願いいたします。

東日本大震災義援金にご協力ありがとうございました。

小渕修子 小島信子 柿崎桂三郎 宮崎秀子
鈴木富子 河合泰信 伊勢谷久子
岩岡叡美子 金山美保子 金加美恵子
三浦義松 岩島規江子 松本喜美子
加藤淳子 渡辺由紀美 継枝吾郎 馬淵悦子
田中一典 立花雅子 橋本勲 佐藤佳代
道下悦子 鈴木誠 東方公雄 中根恵美子
その他多数の方々。*振込募金して下さった方のみ掲載しました。順不同・敬称略

編集後記

秋も深まり、山々の尾根は雪化粧をし、落ち葉舞う木々の間を蝦夷リスが走ります。北大の銀杏並木も見ごろとなりました。木の枝で落ち葉を払って何か探している人がいました。銀杏を捜しているのかと思い尋ねたら、四つ葉のクローバーとのこと。押し葉にして東北の被災地に3000枚贈ったとの話に、一人ひとりが出来る事で応援して行く大切さに思いを新たにしました。3月の震災から7ヶ月余り経ち、もうすぐ冬になります。この震災からの復興を世界中の人たちが応援している。その気持ち・心で暖を取りながら乗り越えて頂きたいと思います。何時までも支援していきます。